

下水道管路施設包括的維持管理等業務委託に関する  
サウンディング型市場調査

**【対話型によるサウンディング調査結果】**

令和3年10月

高槻市 都市創造部

## ■はじめに

本資料は、アンケート調査結果を基に実施した対話型によるサウンディング調査結果をまとめたものです。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、ヒアリング調査は当初予定していた対面ではなく、電話での実施とさせていただき、数多くの貴重なご意見を頂きました。今後は頂いたご意見を参考にしながら、本業務の検討を進めて参ります。

## ■対話型によるサウンディング調査の実施期間

令和3年10月15日～令和3年10月19日

## ■対話型によるサウンディング調査結果

Q1：第1期包括委託業務の公募時に令和8年4月以降の次期包括委託業務に関する現時点での方針の記載をはいかがでしょうか。

(改築工事やその実施設計を業務対象に加える可能性や業務期間等)

A1：次期包括的民間委託については、第1期目の3年間の業務状況を踏まえ、改めて業務内容の検討を行う予定です。

Q2：地域要件の部分で地元企業育成のため、構成企業に本店業者を明記して頂きたいです。(※同様の意見が複数ありました)

A2：本業務は、業務範囲を市内一円としており、今まで同業務に携わって頂いた市内業者の経験は大きな戦力だと考えています。ご意見を参考にさせていただきます。

Q3：ストックマネジメント計画の見直しも業務内容に含めてほしいです。

A3：業務期間内に適用されるストックマネジメント計画は令和5年～令和9年であるため、本業務でのストックマネジメント計画の見直しは想定していませんが、実施方針の提案業務で提案いただいた成果は令和10年からのストックマネジメント計画策定の参考とさせていただきます。

Q4：管路施設の物理的耐久性を評価され、下水道経営の財政に与えるインパクトが大きい目標耐用年数を設定することを目的とすれば、現状調査として見込まれる鉄筋コンクリートの物理試験を大幅に増工される提案の用意があります。

具体的には、目標耐用年数の指標を現状に合わせて、市独自の定量的な判断をするために、現状調査の調査項目を見直しすることが必要と考えます。

A4：現状調査は、管きょ改築における残存強度を求めるものを想定しております。

なお、ストックマネジメント実施方針における耐用年数の指標は、最も重要な要素の1つと考えますので、ストックマネジメント実施方針の提案業務において具体的にご提案ください。

Q 5 : 修繕改築計画は政策的経費としてコンストラクションマネジメント方式にて扱われることを推奨する立場から、包括パッケージに含まれる案にコンサルタントとして賛同しかねます。

A 5 : ご意見を参考にさせていただきます。

Q 6 : 本業務への参加資格について、記載されていますが、記載の内容以外の資格要件が追加されることはありますか？

A 6 : 今後、業務の検討を重ねる中で、資格要件を追加する可能性はあります。

Q 7 : 貴市の下水道管路施設を中長期的に維持管理していくうえで、下水道管路施設の実態を踏まえながらコストとリスクを最適化するストックマネジメント計画を適時見直していくことは非常に重要と考えます。例えば、ストックマネジメントのアウトプットを見据えながら現場の実態に応じて、貴市独自の点検評価基準への見直しや点検箇所を選定を随時見直していくことが効率的かつ効果的なストックマネジメントの実践に繋がると考えます。従いまして、巡視点検業務や詳細カメラ調査業務とストックマネジメント計画見直し業務を包括委託の中で一体的に実施していくことは非常に有効であると考えています。

A 7 : 仕様書(案)【概要版】に示すストックマネジメント実施方針の提案業務は、本業務を履行したうえで今回のようなご意見を期待するものです。そのため、本業務を通じて本市施設の特性を踏まえた提案をしてください。

Q 8 : 下水道 BCP 策定業務や施設耐水化計画を合わせて発注してもいいのではないかと考えます。

A 8 : ご意見を参考にさせていただきます。

Q 9 : 巡視点検業務量が多いと思います。

A 9 : 本市では平成 30 年度より巡視点検業務として、今回公表した業務量と同等の巡視点検を毎年実施しており、本市ストックマネジメント計画の円滑な実施において適正かつ必要な業務量と考えています。

Q10 : 業務期間については、第 1 期目は 3 年間で試行的に実施し、状況に応じて第 2 期目以降は業務委託期間を延長しても良いと考えます。

A10 : (A 1 と同じ)